

研究実施のお知らせ

2021年1月20日 ver.1.0

研究課題名

悪性リンパ腫に対する外来化学療法での病診連携の有用性を明らかにする研究

研究の対象となる方

2017年8月から2020年7月まで島根大学医学部附属病院で悪性リンパ腫に対して初回のがん化学療法を受けられた後、外来化学療法を1回以上実施された患者さん

研究の目的・意義

悪性リンパ腫に対する抗がん薬化学療法（以下、化学療法）は治癒や延命が期待できますが、一定の頻度で副作用が発生します。副作用をなるべく軽くするため、副作用に対する予防的治療、定期的な監視、早期の対応が望ましいですが、知識や経験が必要であり、個人病院や小規模の病院では対応が難しいと言われることがしばしばあります。

島根大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科（以下、当科）では2011年より、「G-CSF 予防投与クリティカルパス」を用いて地域の医療機関に悪性リンパ腫に対する化学療法後の副作用の予防、治療、監視を依頼しており、地域の医療機関でも副作用への対応が可能であることを確認しています。

私たちは新型コロナウイルス感染症蔓延下において、患者の移動を減らしながら化学療法の副作用を予防するために、大学病院のような大きな病院と患者さんの最寄りの個人病院や小規模の病院との協力（以下、病診連携）を促進させるべきだと考えていますが、他の大きな病院は当科のような病診連携はほとんどしていません。また連携先の医療機関にも負担が増えるため、快く引き受けただけでないこともあり、負担に対する補償が必要と考えています。

今回悪性リンパ腫に対する外来化学療法後に最寄りの医療機関と病診連携を実施した患者さんとそうでない患者さんの治療の結果、副作用の程度、通院にかかる時間や費用などを比較し、病診連携が有用であることを明らかにする研究を企画しました。

この研究の結果、病診連携が有用であることを明らかになれば、病診連携がさらに促進され、連携先の医療機関への補償ができるきっかけになる可能性があります。

研究の方法

診療記録を調査し、患者さんの年齢、性別、診断名、治療実施日、治療の実施状況、副作用の発生状況、治療効果、治療成績などの情報を収集し、調査票に記録をして、

島根大学医学部附属病院に郵送します。調査結果を評価し、病診連携を実施した方とそうでない方で違いがあるか評価します。

個人が特定されないように、患者さんには症例番号をつけて情報を扱います。どの患者さんの症例番号が何番かは、研究代表者にしかわからないようにし、研究代表者はその情報を島根大学医学部附属病院内の鍵のかかる保管庫で厳重に管理し、外部に漏れないようにします。

研究の期間

2021年2月（研究許可後）～2022年3月

研究組織

この研究は

島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科	高橋 勉
浜田医療センター	総合診療科	北條 宣政
益田赤十字病院	血液内科	馬庭 泰久
大田市立病院	内科・総合診療科	清原 信昭

が行います。

研究代表者（研究で利用する情報の管理責任者）：

島根大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 高橋 勉

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2021年7月までをお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究代表者：

島根大学医学部附属病院 腫瘍・血液内科 高橋 勉
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1
電話 0853-20-2308 FAX 0853-20-2525